

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2015年
11月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一
印刷所
文明堂印刷所

キャソリック・ヘリテージ (伝統と遺産)

司祭 パウロ 竹内 宗

もう十年以上も前の事です。聖職の集まりで教区の将来について雑談しました。その時私はあまり深く考えず、財政状況や聖職の人数などから、教会もいざれ統廃合の時代が来るのではないかと申し上げました。すると、一人の先輩聖職からお叱りを受けました。教会は神様の計画のうちに建てられたもので、私たちがそう簡単に変えられるものではなく、またこれまで携わってきた聖職・信徒の祈りと働きを無駄にはできないと言っている内容です。今も心に残る大切な言葉です。

今年7月4日(土) 徳山聖マリア教会で第四回教会歴史研究会



教会歴史研究会

研究会が行われました。徳山では毎年7月の第1日曜日に教会関係教役者の逝去者記念礼拝が行われ説教者を招聘し、その前日

に集会や講演会などを企画しています。その一つが「教会歴史研究会」です。この会では信徒全員が研究員となって歴史文書の電子化、古文書や写真の判読、年表や文書のとりまとめを分担し発表します。今回は講師に信

岡章人司祭をお招きし、山口県内の聖公会、特に下関の教会に派遣された神戸聖ミカエル大聖堂初代キャノン、ジョージ・ノエル・ストロング司祭のお働きについて学ぶ機会が与えられました。

英国人宣教師ストロング司祭は1897年生まれ、ダラムで学び1922年執事接手を受けリパールの教会に派遣され、翌年司祭に叙階、1926年S.P.G(英国福音宣布協会)の活動に加わり神戸教区に赴任されました。信岡司祭によれば、ストロング司祭は聖公会が持つ良き伝統と遺産(キャソリック・ヘリテージ)を大切にされた方で、主教の右腕となり下関の伝

道を成功させ、特に信徒に対しては誠実できめ細かなケアをされる方であったそうです。

その働きの一端を知らせる神戸教区第二代主教バジル師父の『書簡集』(神戸教区歴史編纂委員会)には次のように記されています。

「ストロング司祭がどんなに素晴らしい働きをしておられるか、またこの地方部(現在の神戸教区のこと…筆者注)の西端での拡充についてお話ししてみましよう。ご存知のように、彼は下関聖フランシス・ザビエル教会と松山聖アンデレ教会を託されている司祭です。この二つの場所は、一晩の船旅ほど隔たっているのですが、彼は毎月、松山に行っているのです。」(書簡第32号・下巻43頁)。

域で失われた信徒と言われる人々を探し求めていたかということがお分かりになったと思います(下巻91頁)と伝えています。この後、太平洋戦争によってストロング司祭は困難な状況に遭われます。それは敵性外国人という理由で拘束され、本国送還までの八ヶ月間におよぶ抑留生活です。機会があれば教区歴史編纂委員会編の『聖職の姿 わたしの父』40〜48頁をご一読ください。

今、日本は少子高齢化、人口減少と言った大きな問題を抱えています。加えて地方の町々は都市のそれより深刻です。企業や官庁・学校などは合理化の名のもとに、再編・整理、廃止・統合・縮小などを推し進めています。教会も社会と同じようにこの波に呑み込まれてしまうのでしょうか。いや、このような時代だからこそ私たちは先達が積み上げてきた「伝統と遺産」を、感謝をもって受け継ぎ、教会の素晴らしさ、イエス様の素晴らしさを伝える器となれるよう共に祈り求めたいものです。

す。そのような働きを、バジル主教は「ストロング司祭と彼の同労者たちがどんなにたゆまず働いているか、どれほど広い地

(徳山聖マリア教会司祭、

下関聖フランシス・ザビエル

教会管理司祭)

礼拝及び礼拝音楽担当者会

ルツ原田 里香子



礼は、キリスト者に「なる」ということの大切な「始め」の時であり、洗礼によって神の家族の一員とされる、『堅信では、宣教的な生き方に変えられる事が強調され、自分の意志で教会に責任を持って関わる事を意味している』などを確認し、初階餐のあり方についてお話がありました。

発題Ⅱでは礼拝委員・宮崎光司祭が「入信の式の聖歌からの学び」と題して古今聖歌集(1902年)以来、「洗礼・堅信」の聖歌として収録されている曲の変遷を解説。堅信式で歌った聖歌として

「Will you come and follow me」

(Words)

J.L.Bell & G.Maule.

(Music)

KELVINGROVE

(Scottish Trad)

7月10日(金)・11日(土)、東北教区主教座聖堂・仙台基督教会で、管区・礼拝委員会主催による「礼拝及び礼拝音楽担当者会」が行われ、中原司祭と参加しました。2013年の東京開催以来でしたが「今回は東北で！」という当時の参加者の思いが実現した形となり、震災後、機能的で美しく建て替えられた新しい聖堂と教会会館が会場でした。

が紹介され、皆で歌いその優しいメロディと歌詞を味わいました。まだ聖公会聖歌の歌詞として訳され、整えられています。

『「入信式」の式文と音楽をめぐって』と題したテーマで二つの発題がありました。

発題Ⅰは、紫色の冊子『堅信前の陪餐』を巡るQ&Aをテキストとし、礼拝委員会・委員長吉田雅人司祭が解説、『洗

開催中に行われる礼拝



の奏楽は、各教区の参加者数人で分担するのがこの会の恒例ですが、今回私は最後の聖餐式の一部を割り当てられました。タッチの違う鍵盤やストップに戸惑いながらも、明るい聖堂、美しいステンドグラス、高い天井に響く参加者の力強い歌声などに励まされて役目を終える事ができ貴重な経験を頂きました。

閉会后、初夏の日差しに緑が茂る街路樹の大通りを歩いて仙台名物牛タンの店へ。各教区の参加者と共に舌鼓を打ちながら親睦を深め、仙台を後にしました。
(教区礼拝音楽担当者
明石聖リリア・マグダレン教会信徒)

召命黙想会

テモテ 遠藤洋介 神学生

8月18日から8月20日の間、神戸市にある聖ヨハネ修道院で京都教区の古賀久幸司祭様を講師に迎えて行われた、神戸教区召命黙想会に参加させていただきました。

プログラムはまず、中村主教様の講話から始まり、今の牧師に求められる動きや牧師として本当に必要なことは何かということなどをお話してくださいました。次に、古賀司祭様の黙想への導きが行われ、まず古賀司祭様は「この3日間ここは皆さんにとってホスピスだと思ってください。皆さんは長い旅の休憩でここに訪れています。」と言われ、ホテルなどの宿泊施設のことをホスピスと呼ぶ所が多いのだそうです。また、その日の夜には自分の人生の中での今の位置を知るため、過去10年間を振り返るワークシートを書きました。

2日目には淀川キリスト教病院の精神科医長をされていた、工藤信夫先生が古賀司祭様のご紹介でゲスト講師として来てく

ださり、工藤先生は講話の中で、人との繋がりがや出会ったことの大切さをお話してくださいました。その後もプログラムは続き、古賀司祭様からは、聖餐に与ることとはどういうことなのか、色々な場面における「聴く」とは何かということなどの講話を聞かせていただき、黙想会を終えました。

私は今回で3回目の参加で、神学生としては最後になります。改めて自分の今いる位置を考えさせていただき良い時間を与えられました。神学生の間に多くの方々がお支えくださり、そのきっかけはすべて、出会いから始まった繋がりで、出合いを改めて考えさせていただきました。



戦後70年平和祈念講演会

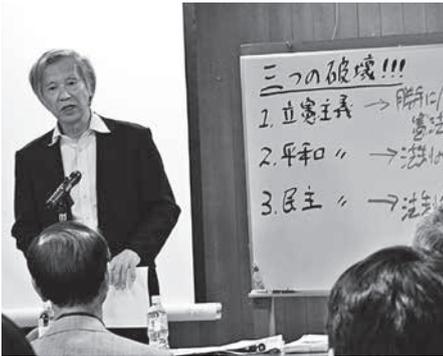
司祭ヨシユア 長田 吉史

9月19日(土)、ちょうど同日未明に安全保障関連法案が参議院で採決されたその日の午後2時より、神戸聖ミカエル教会地下ホールで、日本聖公会正義と平和委員会主催の「戦後70年平和祈念講演会」が行われ、教区内外から約60名の方々が集まりました。講師には、元立教大学特任教授の池住義憲さんをお迎えし、「いま、平和が危ない」というテーマでご講演いただきました。

池住さんはまずこの度の採決にあたって「一方的な憲法解釈変更によって立憲主義が破壊され、安保法制の内容によって平和主義が破壊され、また法制成立の過程によって民主主義が破壊された」と指摘され、「しかし今、世界で軍隊を持たない国は28か国あり、その国々は『軍隊を持たない』と国際社会に宣言していることで、他国から攻撃されていない。だから、徹底した平和外交が必要だ」と語られ、その上で「私たち国民は、私たちの自由と権利を守るために、権力者の権利を抑えるために日本国憲法を大切にしなければ

ばならない」と説かれました。

ただ、キリスト者としての平和とは、やはり様々な誹謗中傷や罵倒ではなく、何よりも「対話」が必要でです。この度の講演会の中でも、ガンジーの塩税法に反対した非暴力不服従運動、またM・L・キング牧師のバス車内人種分離法に反対した非暴力不服従運動を引用されながら、「非暴力」と「不服従」について説かれていました。私は更に、そこに「対話」がなければ、「非暴力」とは言えないと強く感じています。中村主教が最初の挨拶の中で語られた、それぞれの意見を受け入れる姿勢「Agree disagree(同意しないことに同意する)」。つまり多様性の一致が、私たちキリスト者には大切であることをとても考えさせられた時間となりました。(教区正義と平和担当者)



平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる

パウロ 野間 陸

この夏、僕を悩まし、突き動かし、苦しめたのは「平和」と「民主主義」という言葉だった。僕は今年の5月から SEALDS KANSAI(自由と民主主義のための関西学生緊急行動)というグループで「安全保障関連法案」の成立に反対する行動を行ってきた。毎週金曜日に関西各地で街宣を行い、大阪や京都でデモを主催してきた。ネット

らく時間がたつた今、ある意味おもしろく思うのは「誰も絶望していない」という事だ。それは大学二回生の夏休みの殆どを反対行動に費やした僕にしてもそうだ。

僕が行動を起こしてきた最大の目的は、反対している人の声をちゃんと可視化させる、という事だ。テレビの前で「おかしいと思うんだよなあ」と言っているだけではその声はただのひとり言になってしまう。主権者はこの国に生きる一人一人であって、政治家ではない。そして、主権者は選挙の時だけが主権者ではない。おかしい事にはおかしいと言わなければならない。意見があるなら、それは正当な方法で可視化しなければいけない。だから僕は路上に出た。

この法をきっかけにたくさんの方が自分の声を可視化させる方法を知った。主権者はこの国に生きる一人一人だと再確認した。民主主義とはその一人一人が大切に守り育まなければならないものだとも知った。そしてまた、自分たちの行動や声が無意味なものではないのだと知った。どういいう社会で生きたいか、またどういいう社会を次の世代に渡していきたいのかということ

は、この世界で生きる全ての人に問われている事だ。そして、その精神こそが民主主義の根底に流れているものではないかと思う。民主主義はいつだって止まらないし、むしろここから始まったかのようにも感じた。安保法成立後の朝日は、まるで新年の初日の出のようだった。

来年の夏には参議院議員選挙がある。残念なことに有権者のおよそ半分がその権利を棄権しているのが現状だ。さらに、投票権が18歳以上に引き下げられてからの初めての選挙、先日二

十歳を迎えた僕にとって最初の投票になる。

今回の法が成立したから、もう行動しないのかというところではない。民主主義は止まらないし、民主主義の国に生きる一人として民主主義を止めてはいけないのは僕であり、あなたでもある。

「民主主義」と同じくして「平和」も待っているだけでは実現しない未完のプロジェクトである。どうやって「平和」を構築するのか。憲法9条を妄信していけば「平和」はやってくるのか、隣国を敵国扱いして米国と仲良くしていれば「平和」をつくれるのか。「平和」を考え、行動し、実現しなければいけないのも、また一人一人なのである。(姫路顕栄教会信徒)



収穫感謝献金のお願い

司祭 ヨハネ 角瀬 克己

高松聖ヤコブ教会礼拝堂は、今年で築50年になります。建築当初は斬新な建物として建築業界の注目の的だったそうですが、すっかり老朽化し、随所に傷みが目立ってきました。特に外壁はタイル仕上げになっていましたが、50年前の素材だけに、煉瓦の半分程度の厚みと重量があり、またその接着部分が剥がれて浮き上がり、中には手で剥がせる部分もありました。

四国は南海トラフ地震が心配されていますが、この状態では大地震でなくても剥離・落下する恐れがあります。設計社に訊ねると、今ではこうしたタイルは危険を避けるために使われなくなっているとのこと。ニュースでもビルの外壁が落下して通

行人が怪我をしたことがしばしば報道されています。教会という多くの人達が入り出す場所にこのような危険箇所があることは放置出来ず、受聖餐者総会で改修を決議しました。

しかし建築専門家のいない教会委員会ではどういう具体策を採るべきか判断出来ず、設計業者に建物診断と対策を提示して貰い、施工業者数社から見積もりを取り、施工業者を選定しました。

しかしここで一つの大きな問題に直面します。それはタイルを剥がした後の下地部分の状態によつては、追加工事の必要が出てくるとのこと。案の定、下地は亀裂が入っていたり、雨水の為かもろくなっている箇所がたくさん見つかりました。当初の見積額は540万円でしたが、追加工事に約340万円が必要になりました。しかしこの

予想外の出費は教会財政に大きな負担であり、積み立てた基金を使い果たすと運転資金が確保出来なくなります。と言つて、始めてしまった工事を途中で中断するわけにもいかず、困り果てていました。今回、収穫感謝献金でお願いしたいのは、この追加工事です。どうぞよろしくお願いいたします。

(高松聖ヤコブ教会牧師)

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

9月27日(日)

ミカエラ 高出 笑子
神戸聖ミカエル教会

祝 堅 信

9月27日(日)

ミカエラ 高出 笑子
神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

9月9日(水)

ミカエル 成田 吉哉
神戸聖ヨハネ教会より
聖贖主教会へ

瀬戸内伝道区

◎伝道区信徒修養会

9月12日(土)、岡山聖オーガスチン教会で瀬戸内伝道区信徒修養会が開かれた。本年は、第一部「合同礼拝」、第二部「交流会」という構成。第一部では、チャントや聖歌、反復歌などを用いた音楽による礼拝を守り、各教会では殆ど行われることのない礼拝を体験した。第二部は各教会の現状、活動の報告や交流のゲーム、またミニ・バザーが開かれた。残念ながら参加者は少数であったが、有意義な時間を過ごすことが出来た。

神戸伝道区

◎あなたの知らない聖公会

9月20日(日)午後、神戸聖ミカエル教会にて伝道区宣教委員主催の交流会を開催。ポール・トルハースト司祭から「現在の英国聖公会」について話を聞き、伊藤純子姉(神戸国際大学オルガニスト)のオルガン演奏を聴いた。約70名参加。

徳島伝道区

◎伝道区信徒研修会

伝道区信徒研修会を9月23日(水)に徳島インマヌエル教会にて行った。テーマは「災害時、わたしたちに来る事」で、講師はバルナバ瀬山会治司祭(教区社会部長)。30名参加。

◎徳島聖テメテ教会

11月21日(土)午後3時〜5時まで、秋の伝道集会として「やさしいお話と歌で触れるキリスト教」神様どこにいるの?」を開催予定。メッセージ・古本みさ司祭(京都教区)、ワーシツプソング・三木亜佐子姉(当教会奏楽者)。参加費無料。

聖婚式おめでとう

9月22日(火)、神戸聖ミカエル大聖堂で杉野達也司祭とミリアム上原結子姉(沖繩教区三原聖ペテロ聖パウロ教会信徒)の聖婚式(司式:中村主教、説教:原田佳城司祭)が行われた。



12月の教区関係教役者逝去記念聖餐式

日時 2015年12月3日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 中村 豊智
説教 八代 智

12月の記念逝去教役者

2日	主 教	チャニング	ウイリアム	ズ
2日	司 祭	ヨハネ	長 壽	泉
5日	伝道師		森 慶	三
5日	司 祭	テモチ	岩 井	祐 彦
7日	伝道師		武 田	頼 夫
10日	司 祭	パウロ	島 田	信 郎
10日	伝道師	パウロ	大石	太 郎
14日	宣教師	イブリン	水 野	功 税
14日	司 祭	ベテロ	水 貫	主 虎
16日	司 祭		尾 形	一 三
19日	宣教師	マリー	ホス	ム ヌ
20日	宣教師	ハナ	コ	九 九
21日	司 祭	ベテロ	加藤	九 八
29日	司 祭	マルコ	伊 賀	八 東
30日	宣教師	オードリー	ヘ	ン テ
31日	司 祭	マルコ	野 杉	貢

公 示

日本聖公会神戸教区第83(定期)教区会を下記のように招集します。
救主降生2015年9月16日
日本聖公会神戸教区 教区会議長
主 教 アンデレ 中村 豊
記
日時: 2015年11月23日(月)
午前8時から午後5時まで
場所: 神戸聖ミカエル大聖堂
書記を下記のように任命します。
司 祭 ベテロ 中原康貴
執 事 セバスチャン 浪花朋久